

幼 兒 教 育

第十二卷第三號

大正十三年三月十五日發行

△
二十世紀は兒童の世紀」に北歐の新人は申しました。思ひがけない大戦は、この宣言を裏切つて、今や、中歐諸國には、兒童の恐怖時代が參りました。わけても獨逸の子供の慘めさは、見るものをして眼をおほはしめ、聽くものをして耳をふさげしめる有様です。國こそ變れ、親子の情、饑渴の苦しみに於て、かはりのあらう筈はありません。日々にたはれて行くこの餓えたる子供等に對し、また、狂はんばかりに我子のために食を得んとしてつかはれて、行く母親に對し、私共、一掬の涙を惜まないわけには參りません。

△
天然の恵みのたかなわが國は、冬こても、さほごに寒さもはげしくございませぬが、しかも、今や、春待つ心に充ちて居ります、草木の芽ののびるやうに、我が子も生ひ育てかしま念ずるは親心です。風も陽も長閑になりまさる今日此頃を、いとしの子が、身も心も充ち足りて、遊びに餘念なかれかしねがふは親心です。さるを、食を奪はれ、暖をこり去られた彼の國の子供は、身も心も凍りついて、力もなげに、いつ來るこもわからぬ春を待ちわびて居ります。

△
こゝに本誌は、その窮狀の一端を、こゝに子に對する情のこまやかな私共同胞の方の心に訴へたいと思ひます。今や死に瀕してゐる、かの國の子供等、それをこりまく親又は同胞が、遙かに極東の一國から同情の心を送つて居るこゝを聞きましたなら、幾分の慰めにならうと思ひます。微力ながら、我々は、多くの讀者諸氏の涙を集めて、この三月號を獨逸の子供に謹んで獻じたいと思ひます。